

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年10月号

- ◇ 【調査レポート】物価高のアメリカにおける消費者動向・・・・・・・・・・・・・・・・P.1
- ◇ 【NYライフ】手つかずの原生林が広がるインウッド・・・・・・・・・・・・・・・・P.3
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



調査レポート～物価高のアメリカにおける消費者動向～

米国内の雇用環境は良好に推移しているものの、足元の歴史的な物価上昇は庶民の生活に大きな影響を与えています。今回は、食料品や住宅費（家賃）等の物価上昇の実態と世論調査から見える家計の実態を中心に消費者動向をレポートします。

1. 進む物価上昇と世論調査

【物価上昇】

- ✓ 米国の消費者物価指数は今年7月をピークに足元では落ち着きをみせているものの、前年比+8%台と高止まりしています。
- ✓ ガソリン価格は落ち着きつつありますが、住居の家賃や外食費用、日用雑貨、スーパーの食品にまで価格上昇の影響は広がっており、庶民の生活を直撃しています。
- ✓ また、コロナ禍による感染対策や潤沢な失業給付金により、労働者が職場に戻らず、労働者人口が減少している問題もあります。結果、人材不足が慢性化し、賃金も上昇しており、物価が高止まりする一因と言われています。

【世論調査】

米国内の雇用環境は良好で、賃金も増加傾向にある一方、足許では物価上昇が賃金上昇を大きく上回る状況になっています。Marist社による世論調査（図2）では、こうした家計の実態を反映した回答がみられました。

- ✓ 家計の状況が悪化した…37%
 - ✓ 少なくとも1項目以上で支出を抑えた…27%
 - ✓ ローン等の支払遅延が発生した…18%
- 庶民の間では「いかに生活費を安く抑えるか」、「どうすれば節約できるか」への関心が高まっていることが窺えます。

図1 消費者物価指数と賃金の前年比伸び率の推移

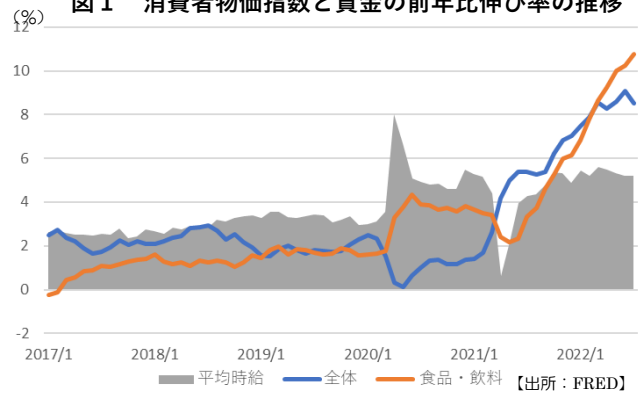


表1 過去1年間の食料品等価格の上昇率 単位：米ドル

	現在	2021年	上昇率(%)
【食料・日用品】			
卵（1ダース）	4.29	2.99	43.5
鶏モモ肉（500グラム）	4.49	3.99	12.5
オリーブオイル（500ml）	8.49	7.49	13.4
ベーコン	7.99	5.99	33.4
チキンカレー（デリバリー）	22.10	18.20	21.4
スターバックス・コーヒー	3.25	2.25	44.4
ミネラルウォーター（1ℓ）	0.79	0.74	7.1
キッチンペーパー（6ロール）	10.99	9.99	10.0
【エネルギー】			
レギュラーガソリン（1ℓ）	1.18	0.70	68.6
電気料金（1kwh当たり）	0.24	0.21	12.6

【ニューヨーク事務所調査】

ご参考：食料品、日用雑貨の価格（円）



卵：620円



チキンカレー：3,200円

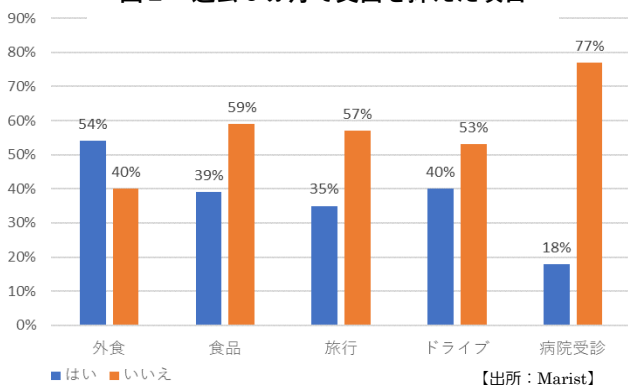


キッチンペーパー：1,600円



食器用洗剤：840円
容量縮小（520ml→490ml）

図2 過去6ヵ月で支出を抑えた項目



2. 米国の住宅市場の動向

- ✓ 家計への影響のうち最も大きいと見られるのは住居費です。消費者物価指数の構成要素のうち、約3割を住居費（賃料）が占めています（図3）
- ✓ 住居費もコロナ禍以降大きく上昇しました（図4）。住居費は物価上昇に直結する他、ガソリンと違い一度上昇すると下がりにくい特徴を持っています。
- ✓ FRBの利上げもあり、住宅ローン金利（30年）も約14年ぶりとなる6%台まで上昇しました。これにより住宅市場は一旦冷える可能性があります。
- ✓ 一方、米国では人口が多いミレニアル世代（図4）が住宅購入適齢期にあるほか、移民流入も含めた人口増加により住宅需要は強い状況です。住宅価格上昇に加え、ローン金利上昇も影響し、購入から賃貸を選択する人が増えるため「今後も賃料は底堅く推移する」と見る向きもあります。

図3 消費者物価指数の構成要素 (%)

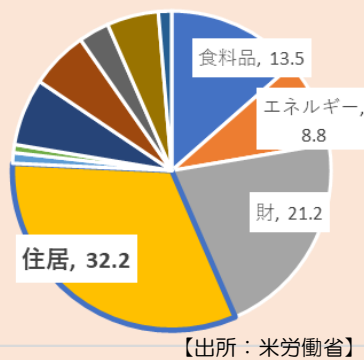


図4 米国の年代別人口分布

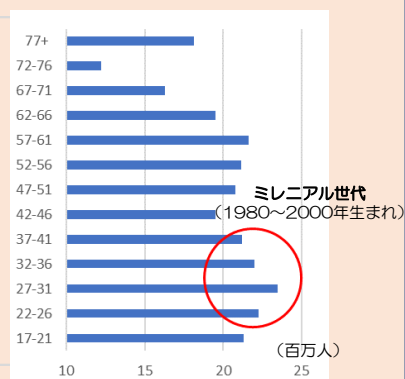
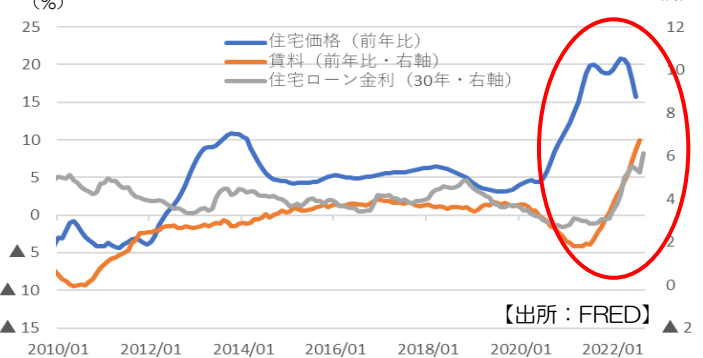


図5 住宅価格、賃料等伸び率・金利の推移



3. 節約志向の高まり

- 家計の影響が深刻さを増すなか、米国では多方面で節約志向が高まりを見せています。
- ①節約術を紹介するニュース番組の人気
 - ✓ 家計節約のヒントを紹介する「The Real Deal」というコーナー（米ニュース番組「News12」内）が人気です。節約術に詳しいレポーターがスーパーでの買い物に始まり、光熱費の節約や、レジャー、育児費用まで幅広く家計を抑えるコツを幅広く紹介します。
 - ②個人売買サイト・アプリの人気
 - ✓ 米国でも個人売買サイト・アプリが発達しています。ガレージセールにヒントを得た対面式のフリマアプリの利用者も拡大しています。
 - ③自社ブランド中心で価格を抑えたお店が人気
 - ✓ 米国でも日本同様、自社ブランドを数多く出し、商品陳列も質素で余計なコストを抑え購入価格に還元するお店が人気です。

【The Real Dealで取り上げられた最近のテーマ】

- ・子どもの放課後の遊興費の抑え方
- ・住宅ローン金利の選び方
- ・コンサートの座席料を安く確保する方法
- ・美容室におけるヘアカラーサービスの有効活用
- ・中古車・リース費用の抑え方

【米国で人気の個人売買サイト・アプリ】

名称	利用者数	特徴
OfferUp	4,400万人	販売手数料無料。
Letgo	2,000万人	売買成立スピードが速い。対面式取引。
Poshmark	500万人	女性・子ども向け衣料品が中心。
VarageSale	270万人	安全・安心の取引をアピール。対面式取引。
Declutter	不明	スマホ・CD・DVD・本・ゲーム等に特化。
Facebook Marketplace	不明	大手SNS Facebook系、手数料無料。

4. おわりに

- ✓ 日々の生活のなかでは節約志向は確実に広がっているのを感じます。そのなかで米国における消費趣向は徐々に変化しており、米国のGDPの大多数を占める個人消費は注目度の高い分野です。
- ✓ 物価上昇にありながらも、どのように消費者の消費意欲をどう刺激するか、また消費のトレンドはどこか、など、販路拡大に役立つ情報を当事務所では引き続き配信してまいります。是非お気軽にご相談ください。（お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp）

【写真は全てニューヨーク駐在員事務所撮影】 【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

NYライフ ～手つかずの原生林が広がるインウッド～

マンハッタン中心部から地下鉄で北へ向かうと、30分程でマンハッタン島の最北端であるインウッド (Inwood) という地域に到着します。駅周辺は車通りも多く普通の街のようですが、20世紀初頭に地下鉄の駅ができるまではほとんど開発されておらず、農園が広がっていました。そのため、今でも手つかずの豊かな自然や歴史的建造物などが残されており、手軽にハイキングや歴史探索を楽しむことができます。

【街の様子】



【公園の野球場】



インウッドの中でも1年を通して多くの人々が訪れるのが、ハドソン川沿いの小高い丘を中心に広がるインウッドヒルパーク (Inwood Hill Park) です。マンハッタン他の公園と異なり、手つかずの原生林が広がっています。道路沿いの平地にはテニスコートや野球場などの設備があり普通の大きな公園という雰囲気ですが、一歩奥に入ると自然のままの木々が生き茂る傾斜のある道になります。

【園内の歩道】



【高台からの橋と対岸の景色】



歩道の多くは坂道ですが、よく整備されているため安心して散歩を楽しむことができます。所々にトレイルへの入口があり、本格的なハイキングもできるよう。15分程坂を上ると、マンハッタン島と対岸を結ぶヘンリー・ハドソン橋が見えてきました。歩道は橋の真下を通っていて、間近から見上げる橋はとても迫力がああります。

【トレイル】



【園内で生息するリス】



周囲ではリスや鳥が動く音がします。人に慣れていないのか、近づいてもあまり気にしていないようです。そんな中、見たことのない黒いリスを見つけました。調べてみると、インウッドを含む国内数か所で見られない種類のリスで、灰色のリスに比べ太陽熱による暖かさを効果的に保つことができると考えられているそうです。木々の中では黒い色は目立ち外敵に対し不利になるような気もしますが、インウッドでは急速に数を増やしているとのこと。

インウッドヒルパーク及びその周辺には、マンハッタンの歴史を垣間見ることができる史跡が多く残されています。どの史跡も興味深く、マンハッタンが「ニューアムステルダム」という名称でオランダの植民地だったこと、比較的最近まで農地だったことなど、この地域に関する新しい発見がたくさんありました。

【Indian Cave】

17世紀以前、この地域に住んでいたレナペ族がキャンプ地として使用していたと考えられる洞窟 (園内)。土器や斧などが発見されている。



【Shorakkopoch Rock】

1626年、オランダ人Peter Minuitが60ギルダー (当時24ドル、2020年時点の約1,000ドル) 相当の交易品と引き換えに、レナペ族からマンハッタン島を購入したという伝説が記されている碑 (園内)。



【Dyckman Farmhouse】

公園近くの通りにあるマンハッタン島内で最古の家屋。現在は博物館として保存され、中を見学することもできる。オランダ人の農業家、William Dyckmanによって1784年頃建築されたオランダ式コロニアルスタイルの農家で、1868年まで使用されていた。農園が広がる周辺の様子を描いた絵画や、各部屋の家具、キッチン等も残されており、当時の生活を窺い知ることができる。



【写真は全て筆者撮影】【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

News 一覧

<政治>

- ・バイデン大統領、一人一万ドルの学生ローン返済免除表明、4300万人に恩恵（8/24）
- ・バイデン大統領、半導体補助金法に施行に関する大統領令に署名（8/25）
- ・バイデン大統領、11月の中間選挙向け遊説開始、共和党の方向性を批判（8/25）
- ・米中、米上場中国企業の監査巡る協定に調印、上場廃止リスク回避（8/26）
- ・エネルギー長官、国内製油企業に燃料輸出の抑制要請（8/27）
- ・バイデン大統領、雇用統計受け「米インフレ緩和の可能性示す兆候」（9/2）
- ・米、台湾に11億ドル超の武器売却へ、中国「対抗措置」の構え（9/2）
- ・バイデン大統領、エネルギー価格の引き下げを確約（9/5）
- ・バイデン大統領、ロシアのテロ支援国家指定に否定的見解（9/5）
- ・NY州、公共交通機関や空港でのマスク着用義務を撤廃（9/7）
- ・ワシントンDC、テキサス・アリゾナからの移民移送で公衆非常事態宣言（9/8）
- ・バイデン大統領、米CPIに進展もインフレ抑制に時間と決意必要（9/13）
- ・米政府、アフガン経済安定化へ35億ドル規模の基金設立（9/14）
- ・バイデン大統領、憎悪犯罪対策で演説、SNSの免責廃止訴え（9/15）

<金融政策>

- ・FRB7月公定歩合会合議事要旨で、ミネアポリスとセントルイスの2地区連銀が1%引上げ要請（8/23）
- ・パウエルFRB議長、「痛み」伴ってもインフレ抑制まで金融引き締め必要（8/26）
- ・クリーブランド連銀メスター総裁、FRB、金利4%超に引き上げる必要（8/26）
- ・クリーブランド連銀メスター総裁、9月利上げ幅はインフレ指標で判断（8/27）
- ・リッチモンド連銀バーキン総裁、物価対応の利上げ、深刻な景気後退につながらず（8/30）
- ・アトランタ連銀ボスティック総裁、インフレ鈍化なら利上げ幅縮小の根拠（8/30）
- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、米金利3.5%超える必要、来年利下げの公算小（8/30）
- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、バランスシート縮小の早期打ち切り巡る懸念一蹴（8/31）
- ・ブレイナードFRB副議長、インフレとの戦い「必要な限り」続く（9/7）
- ・パウエルFRB議長、物価抑制に強くコミット、「大幅な痛み伴わず」（9/8）
- ・セントルイス連銀ブラード総裁、9月の0.75%ポイント利上げ支持に「より強く」傾く（9/9）
- ・カンザスシティ連銀ジョージ総裁、利上げ、スピードより着実さが重要（9/9）
- ・ウォラーFRB理事、経済が吸収可能な時に積極利上げ実施（9/9）

<経済指標>

- ・中古住宅販売戸数：7月は481万件と2年ぶり低水準、6ヵ月連続減少（予想489万件）（8/18）
- ・新築住宅販売戸数：7月は51.1万件で2016年6年半ぶり以来の低水準（予想57.5万件）（8/23）
- ・国内総生産（GDP）：4-6月改定値は前期比年率-0.6%で速報値から上方改定（8/25）
- ・消費者景気信頼感指数：8月は103.2と前月から上昇し、約4か月ぶりの上昇（予想97.7）（8/30）
- ・ISM製造業総合景況指数：8月は52.8と横ばい（予想52.0）（9/1）
- ・非農業部門雇用者数：8月は前月比+31.5万人、20ヵ月連続で雇用増加（予想+30.0万人）（9/2）
- ・失業率：8月は3.7%に上昇し、半年ぶりの高水準（予想3.5%）（9/2）
- ・貿易収支：7月は▲706億ドルと前月の▲796億ドルから赤字縮小、輸出が過去最高（9/7）
- ・CPI：8月は前年同月比+8.3%で伸びは縮小（9/13）
- ・小売売上高：8月は前月比+0.3%（予想±0%）（9/15）
- ・米ミシガン大学消費者信頼感指数：9月（速報値）は59.5と、前月の58.2から上昇（9/16）